

《丹後・地域高規格道路推進協議会定期総会》概要版

【開催日時】令和4年8月24日（水）午後3時30分～午後4時30分

【開催場所】弥栄地域公民館 大ホール（京丹後市弥栄町）

【次第】1開会 2会長挨拶 3来賓挨拶 4議事 5決議(案)

6要望書手交 7事業概要説明 8閉会

【概要】

8月24日、弥栄地域公民館において、丹後・地域高規格道路推進協議会（会長：中山京丹後市長）の定期総会を開催しました。同会議には、国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所長や京都府建設交通部長、京都府議会議員を来賓に迎え、協議会関係者約40名に参加いただきました。

<要望書手交>

新型コロナウイルスからの全国的な地域活性化再スタートの時期にあたり、山陰近畿自動車道の全線整備への更なる加速化を強く求めるため、ミッシングリンクとなっている大宮峰山インターチェンジから府県境までの全線を令和10年代に完成するよう年次計画を立てて早期全線整備を図ることや網野インターチェンジまでを令和5年度には事業化することなど时期的な目途を具体的に示し、今までより強力な要望を決議し、国府の関係者に要望書を手交しました。

<道路管理者：京都府からのコメント>

京都府の濱田建設交通部長は、「地元の熱意がこもった要望を非常に重く受け止めている。今回の要望を実現していくのは京都府単体では困難であり、国の支援は欠かせない。国の事情を十分に踏まえた上で、そのやり方について考え、また皆様の前で話させていただきたいと思っている。」と要望に対してコメントをされました。



決議（案）

山陰近畿自動車道は、京都縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、日本海国土軸を形成する道路であり、令和四年四月には、山陰近畿自動車道全線が貨物積載車両の効率的な運行が確保できる重要物流道路に指定されており、地方創生及び国土強靱化の実現に欠かせない重要な幹線道路である。

丹後地域においては、京都縦貫自動車道の全線開通、山陰近畿自動車道の延伸により、観光客の増加や新たな企業進出など高速道路の整備による多大なストック効果が表れている。

こうした効果を更に高め、当地域の経済・産業の活性化のためには、ミッシングリンクである山陰近畿自動車道の早期全線整備が不可欠である。にもかかわらず、現状、早期全線整備の期的な目途が示されておらず、まちづくりの長期展望を十分に得ていく上でも隘路となっている。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により東京一極集中の是正が求められており、ポストコロナを念頭に交流・関係人口の拡大による地方への人・モノ・仕事の流れを作る地方創生を加速前進させていく必要性が高まっているため、次の事項を強く要望する。

一、山陰近畿自動車道の

- ・ミッシングリンクとなっている大宮峰山インターチェンジから府県境までの全線を令和十年代に完成するよう具体的な整備の年次計画を立てて全線整備の期的な目途を明らかにするとともに、その早期全線整備を図ること

- ・大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを令和五年度には事業化すること

- ・府県境までの区間について、ルート決定に必要な予算措置を行うとともに、地元希望ルート帯に配慮し、早期にルート決定を行うこと

- ・大宮峰山道路及びアクセス道路の事業を早期かつ着実に推進するため、必要な予算措置を行うこと

一、「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」に必要な予算・財源の確保と計画的な事業推進、五か年加速化対策後も予算・財源を通常予算とは別枠で確保し継続的に取り組むこと

一、直轄権限代行や頻発する大規模自然災害等に対応するための地方整備局等の体制の充実・強化をすること

以上、決議する。

令和四年八月二十四日

丹後・地域高規格道路推進協議会